

2020年6月5日

全国薬科大学長・薬学部長会議  
会長 後藤 直正 先生

薬学共用試験センター  
理事長 奥 直人

## 2020年（令和2年）度薬学共用試験 OSCE 実施に関する提案：実施課題数について

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より薬学共用試験にご理解、ご協力を賜り誠に有り難うございます。

5月下旬には政府より、新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルス感染症の第1波は落ち着きつつあります。各大学においても、大学構内における講義や実習の再開に向けて種々検討が進められ、事前学習や共用試験実施に向けても準備が本格化していくものと思います。しかし、コロナ感染症が完全に収束したわけではなく、第2波の流行も十分懸念されています。

薬学共用試験センターでは、こうした状況に鑑み、2020年度のOSCE実施に向け検討を進めてまいりました。

2020年度のOSCE本試験については、緊急事態宣言が解除された状況においても、全大学が3密状態を避けて6課題を実施することは難しく、また、模擬患者や外部評価者などの確保も困難であることなどから、**本年度に限り、3課題に減らして実施することを提案させていただきます。**

- ① 領域1（患者・来局者対応）と領域5（情報の提供）から1課題：各大学が養成してきた模擬患者には高齢者が多いことから、コミュニケーション課題をいずれかの領域から1つを実施する。なお、2020年度に実施予定としていた新規課題“医療従事者への情報提供”は、模擬医師養成講習会の開催が困難であることから今年度は課題にしないこととする。
- ② 領域2（薬剤の調製）から1課題：従来、薬剤の調製は、散剤、水剤、軟膏剤、計数調剤から2課題実施してきたが、いずれか1つを実施する。
- ③ 領域3（調剤監査）と領域4（無菌操作の実践）から1課題：いずれかの領域から1つを実施する。なお、市場におけるマスク、消毒薬、ガウン等の不足に鑑み、2020年度は領域4の“手洗いと手袋の着脱”、“手指の消毒と手袋・ガウンの着脱”は課題にしないこととする。

なお、大学における事前学習において、従来通り全ての領域について知識・技能・態度を身につけたうえで、実務実習に送り出すようお願い致します。

謹白